

稲発酵粗飼料用水稲「クサホナミ」の収穫適期判定のための稲体水分推定法

農業総合センタ - 農業研究所

稲発酵粗飼料用水稲の収穫は、TDN収量が高く、牛の消化性が良く、発酵に適した水分となる、「黄熟期」で行うことが最も良いとされています。発酵を良好にし、品質の良いサイレージとするためには、収穫時の稲体水分が特に重要です。

そこで、県内の主産地で収穫開始の目安とされている「イネの株全体の水分 60%以下」を推定する方法を明らかにしました。

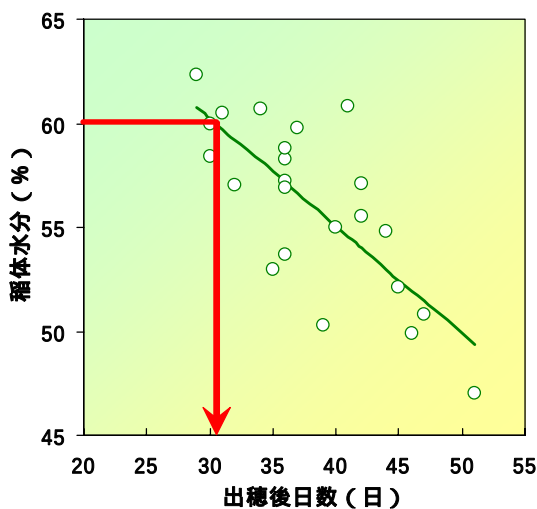


図 1 . 出穂後日数と稲体水分

収穫開始は出穂後 30 日（積算温度 650 ）から

5 月 15 ~ 30 日に移植した「クサホナミ」の出穂期は、8 月 23 日 ~ 9 月 5 日前後です。

出穂後は図のように徐々に水分が低下し、「株全体の水分 60%」に達するのは、出穂 30 日後であり、9 月 23 日 ~ 10 月 5 日前後が収穫開始期です。

なお、この場合の水分は、地際部 15 cmを残して刈り取った直後の稲株全体の水分です。

収穫開始は初水分 35%から

「米麦水分計」を使って初水分を測ることで、稲株全体の水分を推定して収穫開始の目安とすることができます。

圃場内の生育が中庸な 3 株から、最も長い穂を 1 本ずつ採り、カルトンなどを使って直ちに脱穀して混ぜ、水分計で初水分を測定します。初水分 35%が収穫開始の目安です。

なお、初水分 35%まで測定できる水分計として、K 社の SP - 1D₂ や、S 社のコメット CD - 5 があります。

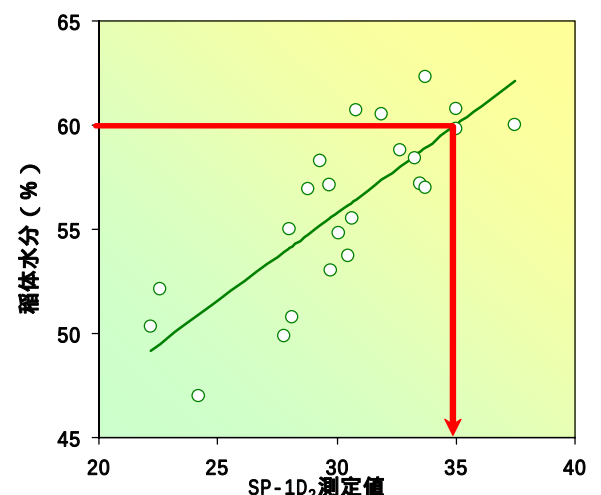


図 2 . 水分計（K 社 SP-1D₂）測定値と稲体水分

初水分を測定するときの注意点

- 1 . 穂を採取後、すぐに測定できない場合は脱穀をせずに穂の状態でビニール袋に入れて乾燥を防ぎましょう。
- 2 . 初水分の測定は、朝露や夜露などの影響を受けない日中の時間帯に行いましょう。
- 3 . 降雨や台風通過後に測定する場合は、イネが充分乾いて、水田の水がひいてから測定しましょう。

< 問い合わせ先；農業研究所作物研究室 電話 029（239）7212 >